

校訓について考える① 「意欲」

高等特別支援学校の校訓は、「意欲」「根気」「自立」です。改めて、この校訓の意味を考えてみたいと思います。その1回目として「意欲」について取り上げます。



「意欲」とは何でしょう。他の言葉で表現すれば、「頑張ります」という気持ち「やる気」と言えると思います。ただここで注意をしなければいけないのは、「気持ち」「気」は、目には見えないことです。心の中に、いくら「頑張ります」という気持ちがあっても、周りの人には分かってもらえません。朝出勤すると、会社の人が「〇〇さん、今日は頑張って働いてくれますか？」など、いちいち確認はしません。朝一番の「おはようございます」の挨拶が、大きな声で、笑顔でできているか？きちんと洗濯された会社の制服を、正しく着用しているか？「〇〇さん、あそこの段ボール箱の商品、運んできて」と頼まれたら、「はい」と返事してさっさと行動できるか？そんなひとつひとつの言葉や行動で、「意欲」は周りの人に伝わっていきます。



ですから高特では、普段の学校生活でも、生徒の皆さんに「意欲」が言葉や行動に出ることを求めています。職業実習の授業の時だけでなく、普段の授業の最初の「よろしくおねがいます」の声で、みんなの意欲は先生に伝わっていますか？教室の清掃をするとき、みんなの姿を見て周りの人は「テキパキやっているなあ」と感じてくれているのでしょうか？毎日の学校生活で「意欲」について意識して過ごしてみてください。

28期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます！

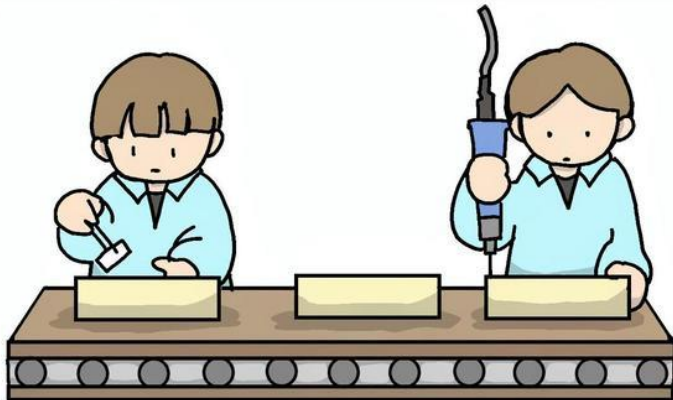
3月5日の卒業式が近づいています。28期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。3年間、様々な学びや経験をした後、皆さんはそれぞれの進路先へと旅立っていきます。高特で身に着けたことを大切にしながら、社会人として活躍されることを願っています。

卒業生のエピソード

最近職場訪問をした卒業生2名の様子について紹介します。

就職して約15年経つAさん。給湯器などに使われるタンクを主に製造する会社で勤めています。入社当時は、部品を一か所取り付けの作業を担当していましたが、ゆっくりながらも正確な作業ができるということで、入社5年目頃からは、給湯器の組み立てを任されるようになっていました。しかし、昨年会社の組織変更があり、給湯器の組み立てから、他部署の仕事をするようになりました。作業の様子も見学させてもらいましたが、特別な工具を使い、小さな部品を2つ組み合わせ、タンク本体へ取り付けていました。ただ、ライン作業ではなく、Aさん一人で自分のペースで作業できるよう配慮も受けていました。入社以来7時間勤務（時給制）は変わっていませんが、上司の方のお話だと、勤怠面では全く問題はないとのことでした。

就職してまだあまり年数の経っていないBさん。Bさんも機械関係の部品を製造する会社に勤務しています。今回の職場訪問の目的は、会社で開かれるケース会議に出席することでした。入社以来数年が経ち、体調不良で欠勤する日が増えてきたこと、作業中不良品が出る個数がふえてきたことについて、会社の上司の方と確認をするための会議でした。Bさん自身も、この2つの問題については自覚しているようでした。この日は、卒業後支援していただいている地元の就労支援センターの職員の方も同席し、今後の働き方について相談をしました。上司の方からは、「体調不良は集中力不足につながり、最悪の場合、事故・怪我につながる。不良品を1つ出すごとに会社全体の利益は減っていつている。」と指導していただきました。今回は、Bさんが仕事を継続できなくなるような状況になる前に、会社から配慮してケース会議を開いていただきました。支援センターの方も、これからは巡回の頻度も増やしますと言ってくださいました。



Aさん、Bさんのエピソードを読んでいただいて、会社が社員に求める働き方がどんなものであるか、会社が一番困ることは何かを、考えてみてください。